

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 28 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について 申請締切 4 月 10 日	64
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	64
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	65
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	65
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	66
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	66
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	67
○平成 27 年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について 2 月 16 日開催	68
○平成 27 年度関東支部現地見学会の開催について 学生対象・参加申込締切 2 月 22 日	68
○水土文化研究会第 13 回研究会の開催について 参加申込締切 2 月 19 日	69
○ARIC セミナーの開催について 3 月 9 日開催	69
○第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について 発表申込締切 2 月 26 日	70
農業農村工学会論文集内容紹介	71
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	72
学会記事	73

### 第 84 巻第 3 号予定

展望：元杉昭男

小特集：大区画水田の未来を支える技術

- ①大規模圃場整備の現状と事業推進上の課題：能見智人ほか
- ②新たな標準区画に対応する水稲乾田直播栽培技術：冠 秀昭ほか
- ③大区画ほ場における RTK-GPS 測位を用いたほ場管理技術の実証：若杉晃介ほか
- ④リモートセンシングを利用した水田地帯における土壌特性の把握：瀧山律子
- ⑤水田における暗渠管を利用した地下灌漑に及ぼす下層土の透水性の影響：原口暢朗ほか
- ⑥転作田における地方維持と大規模水田農家の課題
- ⑦水田作における施肥コスト低減のための多筆管理上の留意点：大家理哉ほか

技術リポート

- 北海道支部：農業用排水路の流出解析と溢水対策の検討：岸田隆志ほか  
 東北支部：三本木幹線水路急流工の落差を活用した小水力発電：宮川潤孝ほか  
 関東支部：「埼玉型ほ場整備事業」の取組み事例：勝俣 孝ほか  
 京都支部：七穂排水機場減速機損傷から学ぶ新たな排水機場診断：西尾光弘ほか  
 中国四国支部：キャベツの大規模団地化に向けた低利用農地の再編整備：高田善雄ほか  
 九州沖縄支部：シラス急崖法面における施工事例：宮崎真人

小講座：農業機械の自動操舵技術：岸 恵純

私のビジョン：木村匡臣

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年2月6日	農業水利研究部会	平成27年度研究集会	ⓑ 農業用水の受給構造の変化に対応した適正水管理システムの構築	東京都	83巻12号 84巻1号
平成28年2月10日	京都支部	平成27年度地方講習会・研修会	ⓑ —	金沢市	83巻12号 84巻1号
平成28年2月16日	全国農村振興技術連盟・農業農村工学会	平成27年度東京フォーラム	ⓑ 強い農林水産業と美しく活力ある農山漁村の実現に向けて(平成28年度農業農村整備関係予算政府案の概要)	東京都	84巻2号
平成28年2月22日	関東支部	平成27年度技術研修シンポジウム	ⓑ 地下水位制御システムの機能と活用	宇都宮市	84巻1号
平成28年2月26日	水土文化研究部会	第13回研究会	ⓑ 伝えるⅡ	東京都	84巻2号
平成28年3月9日	関東支部	平成27年度現地見学会	学生を対象とした現地見学会(六堰頭首工・神流川頭首工ほか)	深谷市ほか	84巻2号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会	ⓑ 水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ —	仙台市	83巻12号 84巻1号

### 平成28年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成28年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込み下さい。

#### 記

#### 1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

#### 2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成28年度中(平成28年4月から29年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助

する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

#### 3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

#### 4. 申請締切 平成28年4月15日(金)

#### 5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

#### 6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階  
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況

になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個

人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

**個人会員一口** 5,000円（何口でも可）

**法人会員一口** 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 2 月号掲載の問題は 3 月末日が解答期限）

#### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 平成 29 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 29 年発行の学会誌も引き続き皆様からの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号

学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

#### 5. 締切

秋季～冬季 平成 28 年 3 月 31 日

春季 平成 28 年 6 月 30 日

夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

### 7. 結果発表

学会誌第85巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成29年度全国大会会場でパネル展示します。

### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

### 10. 使用权・出版権

採用作品の使用权および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

### 学会誌84巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
84巻 2号 小特集なし	公募なし
3号 大規模水田農業の未来を支える技術（仮）	公募なし
4号 農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有（仮）	公募終了
5号 農業土木での環境配慮はなぜだか難しい（仮）	公募終了
6号 東日本大震災から5年（仮）	公募なし
7号 大会特集号（東北支部）（仮）	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたしま

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.151（2015年版）と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）

② 排水（排水管理、排水施設）

③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）

④ 水資源保全（水源開発、水文）

- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壤環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan 社

発行スケジュール：年4回

オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，冊子体の発行は Vol.14, No.1 までとなります。あらかじめご承知おき下さい。

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込み下さい。

なお，2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になり，冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌，国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は，2016 年 1 月に Vol.14, No.1 が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より，トムソン・ロイター社の SCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に，SCIE の IF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルは IF=1.151（2015 年版）と高い評価を得ております。

また，世界 14 カ国から Editor（23 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，年 4 回の発行としております（オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，冊子体の発行は Vol.14, No.1 までとなります）。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局は韓国です。  
投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

編集事務局：Professor Dr. Jin-Yong CHOI

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology  
Rural Water and Information Engineering Lab.  
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University  
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742  
TEL : + 82-2-880-4583 FAX : + 82-2-873-2087  
E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壤保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

#### 編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14 カ国から 23 名

・ Editing Board 26 名

・ Chief Management Editors

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

・ Managing Editors

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

## 平成 27 年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 28 年度に向け農林水産省は、「農林水産業・地域の活力創造プラン」および新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づき、強い農林水産業と美しく活力ある農山漁村を実現するための平成 28 年度農林水産関係予算案を決定しました。農林水産業のグローバル化に対応した各種施策と併せて、強い農林水産業のための基盤づくりや多面的機能の保全などに着目した農山漁村の活性化など、農村振興に関連する多くの施策が盛り込まれており、農村振興関係者に対する期待も大きくなってまいります。

このため、今年度の東京フォーラムでは、新しい農政の方向に対応し、各種の課題について多くの参加者と情報を共有するとともに、平成 28 年度予算政府案について情報提供するため、前農林水産事務次官、学術経験者など多彩な講師陣により研修を開催することといたしました。

下記テーマについて農業農村整備関係者の果たすべき役割等について考える契機となるよう企画しましたので、会員をはじめ皆様の多数のご参加をお待ちしています。

1. 主催 全国農村振興技術連盟  
(公社) 農業農村工学会

## 2. テーマ

強い農林水産業と美しく活力ある農山漁村の実現に向けて  
(平成 28 年度農業農村整備関係予算政府案の概要)

3. 日時 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 9:50~17:00  
受付は 9:15 から行います。

4. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1 科学技術館 B2F  
サイエンスホール TEL: 03-3212-8485

## 5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

9:50~10:30 開会挨拶

全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹  
(公社) 農業農村工学会会長 渡邊紹裕

梶木賞・広報大賞表彰式

10:30~11:50

「水田が持つ三つの価値」(仮題)

宇都宮大学名誉教授・

NPO 法人グラウンドワーク西鬼怒理事長 水谷正一

12:50~14:10

「日本の農林水産業の発展可能性は大きい」(仮題)

前農林水産事務次官 皆川芳嗣

14:10~15:10

「交流で地域を元気に」(仮題)

NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク会長  
菊池新一

15:20~16:20

「インバウンドと農村の活性化」(仮題)

農林水産省農村振興局都市農村交流課課長補佐  
志田麻由子

16:20~17:00

「平成 28 年度農業農村整備関係予算政府案の概要」(仮題)

農林水産省農村振興局整備部設計課技術調査官  
日置秀彦

6. 参加費 8,000 円 (昼食代は含まず。参加費は当日会場で  
申し受けます。)

## 7. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ  
(<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧下さい。

本フォーラムは、技術者継続教育機構会員の CPD 単位 (申請中) にカウントされます。

## 平成 27 年度関東支部現地見学会の開催について

このたび、関東支部では大学の学部生および院生を対象とした現地見学会を企画いたしました。事業が行われた現場を見学するとともに、行政、民間企業、研究者 (大学教員など)、農家のそれぞれの立場から生の声を聞くことによって、農業農村整備事業に対する関心を高め、技術者としての職業観を学ぶ機会になることを期待しています。また、日頃接触の少ない大学を超えた学生間の交流を深めるチャンスでもあります。皆様の積極的な参加をお待ちします。

1. 日時 平成 28 年 3 月 9 日 (水) 9:00~17:00

2. 見学先 六堰頭首工 (埼玉県深谷市)

神流川頭首工 (群馬県藤岡市) ほかを予定

3. 集合場所 さいたま新都心合同庁舎 2 号館 1 階  
エントランスホール

<http://www.maff.go.jp/kanto/annai/address/honkyoku/kyoku.html>

お車でお越しにはなれませんので、公共交通機関をご利用下さい。

4. 移動手段 バス (さいたま新都心合同庁舎 2 号館発着)

5. 対象者 大学に所属する学部生および大学院生 (学年は問わない)

6. **参加費** 無料（集合場所までの交通費は自費）
7. **交流会** 見学会後、簡単な交流会を実施します。  
会費は一人2,000円程度を予定。
8. **参加申込み**  
2月22日（月）までに、メールでお申し込み下さい。  
記載事項：表題を「関東支部現地見学会の参加申込」として、  
本文に大学名・学年・氏名、交流会参加の有無を記載して下さい。  
複数人のグループでの申込みの際も全員の情報を記載して

- 下さい。参加申込み後、詳細情報をお送りします。  
メール宛先：osawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp
9. **問合せ・申込先**  
農業農村工学会関東支部事務局  
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350  
宇都宮大学農学部農業環境工学科 大澤和敏  
TEL&FAX：028-649-5488  
E-mail：osawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp

### 水土文化研究部会第13回研究会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム認定申請中



人間の集団が持つ“文化”にとって、知識や意識を他者に伝え、継承していくことは不可欠である。

「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義される〈水土〉も、この「伝える」という営為を各世代がたゆみなく続けて形成・維持されてきた。現代に生きる我々にとっても、それを継承・活用し、次世代へ着実に伝えていくことは責務であり、未来への歩みの基礎をなすといえる。

第13回水土文化研究会においては、昨年度に引き続きこのテーマを取り上げる。〈水土の知〉を巡り、過去からの想いの伝承と、若い世代の伝承文化に対する関心や感覚、実践等から来し方・行く末を考えていきたい。

1. **テーマ** 伝える II
2. **日時** 平成28年2月26日（金）13：00～16：00
3. **場所** 農業土木会館 2階会議室B  
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
TEL：03-3434-0461
4. **プログラム**（表題は変更されることがあります）  
講演  
「〈水土の知〉の伝承—黒鍬の知、河童の知—」  
水土文化研究部会 広瀬 伸

「高校生による地域の伝承文化研究—國學院大學の取り組み—」  
國學院大學文学部教授 小川直之  
パネルディスカッション  
「伝える～未来に向けて～」

5. **参加料** 無料
6. **申込み・問合せ先**  
〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6  
農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所  
資源循環工学研究領域エネルギーシステム担当  
上席研究員 後藤真宏  
TEL：029-838-7614 FAX：029-838-7609  
E-mail：griese@affrc.go.jp
7. **参加申込要領**  
整理の都合上、2月19日（金）までに以下の要領にてお申し込み下さい。
- 氏名 \_\_\_\_\_ (CPD番号 \_\_\_\_\_)  
所属機関 \_\_\_\_\_  
所在地 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_  
FAX番号 \_\_\_\_\_
- \* 部会員以外の方も参加できます。

### ARIC セミナーの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



近年の情報技術の進展を踏まえ、農業農村整備にかかるシステム開発、データ処理および新技術等の情報発信に関する取組みを推進することが必要となっています。

このため、農業農村整備に関連する新技術等の開発・活用、ARICが進めている「水土の礎」を踏まえた電子図書館構想、農業農村整備に関するビッグデータの処理および地理情報システムへの利用など、農業農村整備における新技術、ICT技術等の今後の展開について、技術開発や活用に直接携わる方々を講師に迎え、ARICセミナーを開催します。

1. **主催**（一社）農業農村整備情報総合センター  
**後援** 農林水産省、農村工学研究所、農業農村工学会ほか（予定）
2. **期日** 平成28年3月9日（水）13：00～16：30

3. **場所** 秋葉原UDXシアター  
千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX 4階  
URL：http://www.udx.jp/theater/  
TEL：03-3254-8421
4. **講演内容**（題目は仮題）  
(1) 基調講演  
「農業農村整備における新技術の開発と活用」  
農村工学研究所企画管理部長 山本徳司  
(2) 講演  
「農業農村整備における新技術の開発と利用の促進」  
農村振興局施工企画調整室長 佐々木明德  
「公的セクターにおけるFOSSの活用事例」  
農業環境技術研究所主任研究員 岩崎亘典

「山形県水土里情報システムの運用事例」

水土里ネットやまがた技術部長 角田五郎

「空間情報取得技術とその応用」

国際航業(株) 技術部長 大石 哲

「電子図書館構想の展開と農業農村整備におけるデータ活用」

農業農村整備情報総合センター研究第一部長  
鈴木孝文

5. 参加費 無料

6. 参加申込み・問合せ先

(一社) 農業農村整備情報総合センター

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 10-16

MY ARK 日本橋ビル 2階 総務部内 (担当: 北野, 地主)

TEL: 03-5695-7170 FAX: 03-3664-2100

E-mail: kitano@aric.or.jp

## 第53回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について

アイソトープ・放射線研究発表会は、さまざまな専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究の発表と討論を行い、各分野間の知見と技術の交流を図るものです。奮ってご応募、ご参加下さいますようご案内いたします。

今回より事前参加登録制度を導入いたします。詳しくは日本アイソトープ協会ホームページでご確認下さい。

1. 主催 (公社) 日本アイソトープ協会  
共催・協賛 (公社) 農業農村工学会ほか 62 学協会 (予定)
2. 開催日 平成 28 年 7 月 6 日 (水) ~ 8 日 (金)
3. 場所 東京大学農学部弥生講堂  
(東京都文京区弥生 1-1-1)
4. 発表内容  
それぞれの研究分野において、その専門的な成果を得た放射性同位体、安定同位体や放射線の利用研究、およびこれら利用の基礎となる研究。少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること。
5. 発表者の資格  
発表者の一人が本発表会の主・共催または協賛学協会の会員であること。
6. 発表形式 口頭発表またはポスター発表。

7. 申込方法

日本アイソトープ協会ホームページ (<http://www.jrias.or.jp/>) 内の専用ページからお申し込み下さい。発表申込要項の詳細はホームページをご覧ください。

8. 発表申込締切 平成 28 年 2 月 26 日 (金)

9. 講演要旨原稿締切 平成 28 年 4 月 15 日 (金)

10. 参加費 事前登録: 4,000 円 当日登録: 5,000 円

学生: 無料

要旨集: 3,000 円 (税込, 当日会場にて販売)

11. その他

若手研究者による研究活動の奨励を目的として、若手優秀講演賞を設けています。優秀な口頭発表を行った学生および若手研究者を表彰するもので、発表申込時の申請が必要です。詳細はホームページをご覧ください。

12. 問合せ先

アイソトープ・放射線研究発表会事務局

(公社) 日本アイソトープ協会企画運営本部学術振興部

学術・出版課 担当: 杉山

〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45

TEL: 03-5395-8081 FAX: 03-5395-8053

E-mail: gakujuitsu@jrias.or.jp

URL: <http://www.jrias.or.jp/>

# オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成 27 年 4 月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE 上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→ 電子投稿・査読システムの導入により、平均 3 カ月 で審査終了!

→ 審査終了後、順次 J-STAGE に掲載!

→ 投稿資格を緩和、会員以外の投稿も可能に!